

〔原著〕

バレーボールゲームにおけるブロード攻撃に関する研究

—Vリーグ・女子を対象として—

箕輪 憲吾¹, 今丸 好一郎²
俵 尚申³

要 旨

本研究の目的は、バレーボールゲームにおけるブロード攻撃の出現状況、攻撃の結果と勝敗の関連等を明らかにし、今後のバレーボール指導の資料を得ることであった。対象は、8チーム3回戦総当たり制で行われた2015/16 Vプレミアリーグ女子のレギュラーラウンド3回目の対戦(3Leg)における全28試合、101セットであった。主な結果は以下のとおりである。

- 1) ブロード攻撃が全体のスパイクに占める割合は7.79%であり、レシーブ状況の中ではレセプション後のブロード攻撃の打数が最も多かった。
- 2) レシーブ状況別のブロード攻撃の出現結果にはセットの勝敗間に明らかな差があり、DIG後の出現がセットの勝敗に関連していた。
- 3) ブロード攻撃は、決定力が高く、ミスが少ない有効な攻撃手段であることが明らかになった。
- 4) ブロード攻撃の結果がセットの勝敗に影響しており、特にレセプション後の決定力が重要であった。
- 5) ブロード攻撃は、アンテナ付近からの攻撃(SC)、セッターが定位置の場合(AR)の攻撃、および軟打の結果がセットの勝敗に関連していた。

キーワード：バレーボール、ゲーム分析、ブロード攻撃、Vリーグ

I 緒言

近年のバレーボール・Vリーグ女子におけるスパイク決定率の成績上位の選手は、チームの

攻撃の中心である外国人選手、あるいはミドルブロッカー(外国人選手を含む)の選手が多い。言うまでもなく、外国人選手は日本人選手と比較して身体能力が高く、そのスパイク決定力に

1 名古屋学院大学 スポーツ健康学部

2 東京女子体育大学 体育学部

3 九州共立大学 スポーツ学部

Received 12 November, 2021

Revised 21 December, 2021

Accepted 21 December, 2021

Correspondence to: Kengo Minowa

E-mail: k.minowa@ngu.ac.jp

よる結果である。その一方で、ミドルブロッカーの選手は、アウトサイドのアタッカーと比較して常に相手ブロッカーが2人以上となる二段トスのスパイクを打つことが少なく、セッターからのトスをいい状態で打つことが多いため、決定率も高いと考えられる。

以前はセンタープレーヤーと言われ、最近ではミドルブロッカーと呼ばれるようになった選手の役割の中心は「ブロック」と考えられている。しかし、1999年に導入されたラリーポイント制のルールによって、渡辺 [10] は「最後はセンター攻撃という選択肢が、これまでより多く見られるようになった」と指摘している。そして、攻撃におけるミドルブロッカーのチームへの貢献について「①自らアタックを決めて点を取る、②おとりとして相手ブロッカーを引きつけ、自チームのほかの選手が、有利に攻撃できるような状況をつくる」[10] の2点を挙げている。ミドルブロッカーによる主な攻撃は、ファーストテンポと言われる、いわゆる速攻である。その中で、特に女子のミドルブロッカーの攻撃の特徴の一つにブロード攻撃があり、これはVリーグにおける多くのスパイク決定率の成績上位の選手が得意としている攻撃方法である。

バレーボールにおけるブロード攻撃とは、アタッカーが片足踏切でジャンプ（ワンレグジャンプ）をして、身体がネットに平行に流れ、スライドしながら打つ攻撃 [4] であり、スライドスパイク [9]、ワイドスパイク [11]、ワンレグ・スパイク [4] などとも呼ばれている。ブロード攻撃は、右利きのミドルブロッカーがライト側に移動して行うことが多く、女子で多く見られるコンビネーション [1] と言われており、一般的にセッターと並んだポジションのミドルブロッカーは、ワンレグ（いわゆるブロー

ド攻撃）に入るケースが多くなる [10] と指摘されている。これに関連して吉田ほか [12] は、2014年に開催された世界選手権女子を対象とした攻撃パターンについての研究の結果、日本チームを含めた全てのチームのミドルブロッカーの攻撃パターンとして、ブロード攻撃が主要な攻撃として使われていたことを報告している。

このように、バレーボールゲームにおけるブロード攻撃は重要な攻撃の手段と考えられているが、これまでにブロード攻撃に関する研究はあまり行われていない。その中で、大学リーグを対象とした研究の結果、バレーボールゲームにおけるブロード攻撃は「出現率は低いが、決定率は高く有効な攻撃手段である」[5] と報告されている。また、Vリーグにおけるブロード攻撃への対応を中心とした事例に関する研究 [8] の報告が行われており、トップレベルにおいてもブロード攻撃およびその対応は重視されていると考えられる。

このような状況の中で、本研究は、日本のトップレベルであるVリーグを対象として、これまでにあまり研究が行われていないブロード攻撃を取り上げ、その出現の状況および攻撃の結果とゲームの勝敗との関連等を明らかにし、今後のバレーボール指導の資料を得ることを目的として行うものである。

II 研究方法

1 対象

対象は、8チーム3回戦総当たり制で行われた2015/16 Vプレミアリーグ（現V1リーグ）女子のレギュラーラウンド3回目の対戦（以下：Vリーグ3Leg）における全28試合、101セットであった。

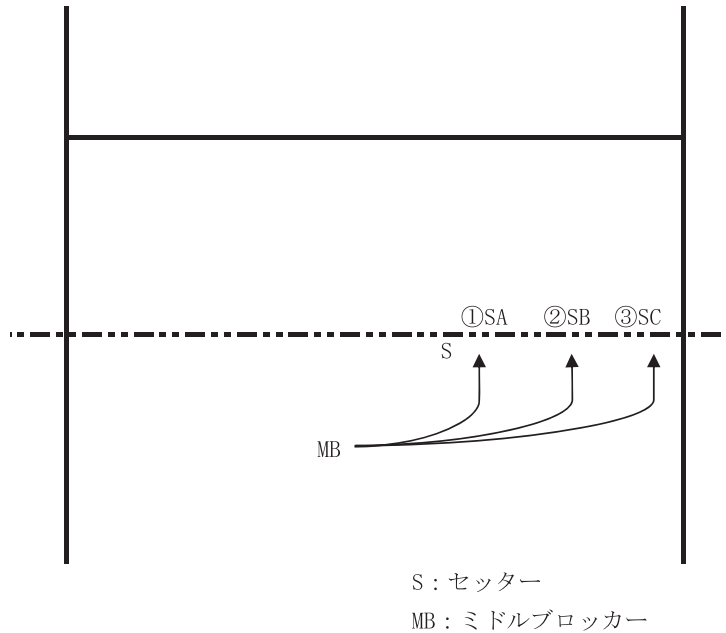


図1 3種類のブロード攻撃
箕輪 (2017) [8] の図1改変

2 データの集計

データの収集は、Vリーグにおけるアナリスト歴4年の者がData Project社製のData Video 2007を使用して入力したものとVリーグホームページ (<https://www.vleague.jp/>) の過去の記録を利用して行った。

データの集計は以下に示す項目に関して行った。

- 1) ブロード攻撃の出現結果と勝敗の関連
- 2) ブロード攻撃の結果と勝敗の関連

3 ブロード攻撃の分類

本研究では、USAナショナルチームが用いていたセットシステム [9] を参考に、ブロード攻撃を図1に示すようにセッターとミドルブロッカーとの位置関係によって以下の3種類に分類した。

- ① セッターの真後ろのブロード攻撃 (以

下: SA)

- ② セッターの真後ろとアンテナの間のブロード攻撃 (以下: SB)

- ③ アンテナ付近からのブロード攻撃 (以下: SC)

4 研究方法

ブロード攻撃の出現結果については、まず、Vリーグ3Legにおける全体のスパイクに対するブロード攻撃の占める割合を算出した。

次に、レシーブの状況を、①レセプション (サーブレシーブ, 以下: REC), ②ディグ (スパイクレシーブ, 以下: DIG), ③チャンスボールレシーブ (以下: CB), ④ブロックフォローレシーブ (以下: BF) に分類し、各状況におけるブロード攻撃の打数を集計、出現率を算出した。

さらに、レシーブの結果を「セッターが定位

置でコンビネーション攻撃ができる返球(以下:AR)」、「セッターが移動するがコンビネーション攻撃が可能な返球(以下:BR)」に分類して、全体とそれぞれにおける3種類のブロード攻撃の打数を集計、出現率を算出し、ARとBRの間で検定を行った。

ブロード攻撃の出現結果と勝敗の関連については、レシーブの状況別および3種類のブロード攻撃について打数を集計、出現率を算出し、勝敗間で検定を行った。

ブロード攻撃の結果と勝敗の関連については、まず、Vリーグ3Legにおけるブロード攻撃とそれ以外の攻撃の打数と決定数、ミス数を集計、スパイク決定率(決定数/打数×100)とスパイクミス率(ミス数/打数×100)を算出し、セットの勝敗間で検定を行った。

次に、全体とレシーブ状況別のブロード攻撃の打数と決定数を集計、スパイク決定率を算出し、セットの勝敗間で検定を行った。

同様に、3種類のブロード攻撃、レシーブの結果および攻撃における強打と軟打について打数と決定数を集計、スパイク決定率を算出し、セットの勝敗間で検定を行った。

なお、本研究における検定はすべて χ^2 検定で行い、その結果として有意な差が認められた中で必要な項目に関しては残差分析を行った。

以上によって得られた結果について、検討、考察を行った。

III 結果と考察

1 ブロード攻撃の出現結果と勝敗の関連

まず、Vリーグ3Legにおけるブロード攻撃が全体のスパイクに占める割合は7.79%(ブロード攻撃数632本、総スパイク打数8118本)であった。

表1は、レシーブ状況別のブロード攻撃の出現結果を示したものである。この結果、レセプション(REC)後のブロード攻撃が最も多く、次いでDIG、CBの順であり、BFからの攻撃はほとんど見られなかった。これについては、バレーボールゲームにおけるレシーブの状況を考えると、ラリー中はDIGの場面が多いにもかかわらずその後のブロード攻撃の出現数が少ないと感じられる結果であった。その理由としては、ブロード攻撃はセッターがオーバーハンドでトスを上げることが基本的な条件であり、さらにミドルブロッカーとセッターの位置関係や十分に助走が取れるかなども条件となることが考えられる。さらに、ミドルブロッカーはブロック後あるいはフェイントレシーブに入った後、つまりどちらもネットに近い位置から攻撃を行う場面が多く、VリーグのレベルにおいてもDIG後はブロード攻撃を仕掛けるには難しい状況と考えられるため、出現数が少なかったと推察される。

また、VリーグのレベルではそもそもCBの場面は少なく、BF後のブロード攻撃はミドルブロッカー自らのスパイク後か他のアタッカー

表1 レシーブ状況別のブロード攻撃の出現結果

		REC	DIG	CB	BF	TOTAL
ブロード攻撃	n	434	99	81	18	632
	%	68.67	15.66	12.82	2.85	100

のブロックフォロー後のネットに近い位置からの攻撃となる上に、ブロックされたボールもネットに近い位置が多いことから、DIGよりもさらに難しい状況と言え、出現数が少なかったと推察される。

表2は、全体(TOTAL)とレシーブ結果別の3種類のブロード攻撃の出現の結果を示したものである。検定の結果、ARとBRのブロード攻撃の出現状況に1%水準で有意な差が認められ、残差分析を行った結果、SAとSCについて1%水準で有意な差が認められた。

Vリーグ3Leg全体におけるブロード攻撃の出現数はSA<SB<SCの順で、これはAR、BRともに同様の傾向であり、バレーボールゲームにおけるブロード攻撃はSCが最も多いという結果であった。しかし、ゲームにおけるレシーブの結果によってブロード攻撃の出現には明らかな違いが認められ、セッターが定位置でブロード攻撃を行う場合(AR)はセッターの真後ろで行われるSAの割合が高く、セッターが移動してコンビネーションを組む場合(BR)はアンテナ付近で行われるSCの割合が高いという結果であった。このことについて、SAはアタッカーが片足ジャンプしたところから上がってきたトスを打つ攻撃であり、BRにお

いてSAを使うことができるのはセッターが移動したとしてもネットに近い位置に限られ、セッターがネットから離れてしまえばほぼ使うことはできない。このことが、ARとBRの間のSAの打数の差となっていると推察される。一方で、SCの場合はセッターがネットから離れた場合でも、高めに上げたトスをミドルブロッカーが追いかけて打つことが可能であり、それがBRあるいは全体においてSCが多かった一つの理由と考えられる。

これらのことをディフェンス側から考えると、相手にブロード攻撃を得意としている選手がいるチームとの試合であれば、ARの場合はSA、BRの場合はSCが多いことを意識してブロックとディフェンスの準備をしておく必要があると言えよう。

表3は、各レシーブ状況における勝敗別のブロード攻撃の出現結果を示したものである。検定の結果、5%水準で勝敗間に有意な差が認められ、残差分析を行った結果、DIGについてのみ1%水準で有意な差が認められた。これらのことから、ゲームにおけるレシーブの状況によってセットの勝敗間のブロード攻撃の出現には差があり、その中でDIG後のブロード攻撃がセットの勝敗に関連していることが明らかに

表2 セッターとの位置関係別のブロード攻撃出現率

		SA	SB	SC	
TOTAL	n	113	175	344	632
	%	17.88	27.69	54.43	100
AR	n	78	86	154	318
	%	24.53	27.04	48.43	100
BR	n	35	89	190	314
	%	11.15	28.34	60.51	100
調整済み	AR	4.390 **	-0.365	-3.049 **	
標準化残差	BR	-4.390 **	0.365	3.049 **	

** p < 0.01

なった。

箕輪 [5] は、大学リーグを対象としてブロード攻撃をレセプション後とラリー中に分類して研究を行った結果、ラリー中についてセットの勝者のブロード攻撃の出現数が明らかに多かったと報告している。このことに関連して、本研究ではラリーの中では特にDIG後のブロード攻撃の出現数がセットの勝敗に影響していることが明らかとなった。

前述のようにVリーグのレベルにおいてもDIG後はブロード攻撃を仕掛けるには難しい状況と考えられ、これについては、セット勝者の方がDIGの結果が優れていることに関連していると同時に、ディフェンスから攻撃への素早い切り返しの動作ができていたことを示した結果と推察される。これは、ブロード攻撃について「ラリー中の攻撃の場合は積極的に用いるとともに、レシーブをセッターに正確に返球しスライdspイク（ブロード攻撃）を使える形を

多く組み立てることがセットで勝利を得るための重要な要素である」[5] によって支持されるものであろう。

表4は、3種類のブロード攻撃の勝敗別の出現結果を示したものである。検定の結果、セットの勝敗間に有意な差は認められなかった。この結果から、バレーボールゲームのセットの勝敗には3種類のブロード攻撃をどう使うかは関係していないと考えられた。

2 ブロード攻撃の結果と勝敗の関連

表5は、Vリーグ3Legにおけるブロード攻撃とブロード攻撃を除く他のスパイクの決定とミスの結果を示したものである。検定の結果、スパイク決定の結果については1%水準で、スパイクミスの結果については5%水準で有意な差が認められた。これらのことから、バレーボールゲームにおけるブロード攻撃は、決定率が高く、ミスが少ない有効な攻撃手段であることが

表3 セットの勝敗とレシーブ状況別のブロード攻撃出現率

		RECEP	DIG	CB	BF	
WIN	n	213	64	40	6	323
	%	65.94	19.81	12.38	1.86	100
LOSS	n	221	35	41	12	309
	%	71.52	11.33	13.27	3.88	100
調整済み 標準化残差	Win	-1.511	2.934 **	-0.333	-1.531	
	Loss	1.511	-2.934 **	0.333	1.531	

** p < 0.01 * p < 0.05

表4 セットの勝敗とセッターとの位置関係別のブロード攻撃出現率

		SA	SB	SC	
WIN	n	55	93	175	323
	%	17.03	28.79	54.18	100
LOSS	n	58	82	169	309
	%	18.77	26.54	54.69	100

ns

明らかになった。

これについて、他のスパイクには、これまでの研究 [6, 7] の結果にも示されているように、ブロックが2人以上跳ぶことが多いために決定率が低いとされる二段トス攻撃も含まれていることから、その差が出るのは当然とも考えられる。しかし、大学リーグを対象とした研究 [5] における「ブロード攻撃の決定率が攻撃の中で最も高かった」という結果と本研究の結果は同様の傾向と考えられ、バレーボールゲームにおけるブロード攻撃は競技レベルが異なっても有効な攻撃手段であると言える。

表6は、全体 (TOTAL) とレシーブ状況別のブロード攻撃の結果と決定率を示したものである。検定の結果、全体のブロード攻撃については5%水準、レセプション (REC) 後のブロード攻撃については1%水準で勝敗間に有意な差が認められた。これらのことから、バレーボールゲームにおいては、ブロード攻撃の結果が

セットの勝敗に関連しており、その中で、特にレセプション後のブロード攻撃の結果が重要であることが明らかになった。

大学リーグを対象とした研究 [5] においても、全体とレセプション後のブロード攻撃の結果にセットの勝敗間に有意な差が認められたと報告されており、競技レベルが異なってもブロード攻撃がセットの勝敗に与える影響は同様であることが認められた。

全体のブロード攻撃の結果にセットの勝敗間に有意差が認められたことと、表4に示した3種類のブロード攻撃の出現率にセットの勝敗間に明らかな差がなかったことを考えると、バレーボールゲームにおいては3種類のブロード攻撃をどう使うかではなく、その攻撃でどれだけ得点できるかが重要であると考えられる。

特にレセプション後のブロード攻撃の結果が重要であることに関連しては、平馬 [2] による、2008/9 V・プレミアリーグ・女子のレセプ

表5 ブロード攻撃と他のスパイクの結果

	ブロード攻撃			他のスパイク			
	打数	決定	決定率	打数	決定	決定率	
決定	632	289	45.73	6854	2367	34.53	**
ミス	632	23	3.64	7486	418	5.58	*
							** p < 0.01 * p < 0.05

表6 セットの勝敗とレシーブ状況別のブロード攻撃決定率

	WIN			LOSS			
	打数	決定	決定率	打数	決定	決定率	
REC	213	113	53.05	221	86	38.91	**
DIG	64	25	39.06	35	17	48.57	ns
CB	40	22	55.00	41	21	51.22	ns
BF	6	3	50.00	12	2	16.67	ns
TOTAL	323	163	50.46	309	126	40.78	*
							** p < 0.01 * p < 0.05

ションアタックの決定率の平均は41.8%という報告と比較して、本研究のセットの勝者のレセプション後のブロード攻撃の決定率は約11.3%上回っていたことも、それを支持するものであろう。

また、有意差は認められなかったが、DIG後のブロード攻撃のみセットの敗者の方が決定率が高かったことは、打数が少なかったことによる結果の可能性も考えられる。しかし、表3に示している残差分析の結果、レシーブ状況の中ではDIG後のブロード攻撃についてのみ明らかにセットの勝者が多かったことを考えると、前述のとおり、DIGの場合はブロード攻撃ができる状態をいかにつくるかが重要であり、それがセットの勝敗につながっていることを示していると推察される。

表7は、3種類のブロード攻撃の結果を示したものである。検定の結果、SCについてのみ5%水準で勝敗間に有意な差が認められた。このことから、バレーボールゲームにおけるブロード攻撃の中ではSCの結果がセットの勝敗に関連していることが明らかになった。

箕輪 [5] は、「全体のブロード攻撃の結果が勝敗に影響していた」と報告しているが、本研究においてはブロード攻撃を3種類に分類して研究を行った中で、特にアンテナ付近からのブロード攻撃 (SC) の結果が勝敗に関連していることが明らかとなった。

バレーボールゲームにおけるSCはブロード攻撃の中で最も打数が多い攻撃(表2)であり、その結果のみに有意差が認められたことは、SCの決定力を上げることがセットで勝利するために必要な要素の一つと言えるだろう。ただ、勝敗間の決定率の差が15.08%と最も大きかったSAについて有意差は認められなかった理由は打数が少なかったこととも考えられ、その決定力もセットの勝敗に関連している可能性がある」と推察される。

表8は、レシーブの結果別のブロード攻撃の結果を示したものである。検定の結果、ARの場合について5%水準で勝敗間に有意な差が認められた。このことから、バレーボールゲームにおいては、セッターが定位置でコンビネーション攻撃ができる返球の場合 (AR) のブロー

表7 セットの勝敗とセッターとの位置関係別のブロード攻撃決定率

	WIN			LOSS			
	打数	決定	決定率	打数	決定	決定率	
SA	55	32	58.18	58	25	43.10	ns
SB	93	48	51.61	82	42	51.22	ns
SC	175	83	47.43	169	59	34.91	*

* p < 0.05

表8 セットの勝敗とレシーブ結果別のブロード攻撃決定率

	WIN			LOSS			
	打数	決定	決定率	打数	決定	決定率	
AR	167	93	55.69	151	65	43.05	*
BR	156	70	44.87	158	61	38.61	ns

* p < 0.05

ド攻撃の結果がセットの勝敗に関連していることが明らかになった。

この結果は、セッターに正確に返球された場合にブロード攻撃で得点することが、セットの勝利につながることを示している。これに関しては、渡辺 [10] の言うミドルブロッカーの「おとりとしての役割」にも関連すると考えられ、コンビネーション攻撃においてブロード攻撃を決めることが「おとりの効果」を上げ、それが他のスパイクの結果に影響し、その結果として勝利につながる可能性があるかと推察される。

また、BRにおけるブロード攻撃の決定率は勝敗ともにARより低い結果であった。この結果はセッターが移動することによりブロード攻撃の決定率が下がることを意味しており、バレーボールゲームにおけるディフェンスの重要性を示すものであろう。

表9は、ブロード攻撃における強打と軟打の結果を示したものである。検定の結果、軟打について5%水準で勝敗間に有意な差が認められた。このことから、バレーボールにおけるブロード攻撃については、軟打の結果が勝敗に関連していることが明らかになった。

本研究の結果は、バレーボールゲームにおける軟打の有効性についての「軟攻は相手との駆け引きのもと得点に繋がる」[3] という指摘によって支持されるものであり、ブロード攻撃においてはいかに軟打で得点を取ることがセットの勝利につながると考えられる。

また、バレーボールゲームにおける軟打の状況は二通りあり、一つは、強打もできるが軟打を選択した場合、もう一つはコンビネーションが合わずに軟打しかできない場合である。これについてビデオを確認する中で、セットの勝者の軟打は結果として得点になっているだけでなく、強打もできる状況の中で意図的に軟打を利用して得点を取っている場面が多く、それがセットの結果にも影響していると感じられた。

IV まとめ

2015/16 Vプレミアリーグを対象として、バレーボールゲームにおけるブロード攻撃の出現状況、攻撃の結果と勝敗の関連等を明らかにし、今後のバレーボール指導の資料を得るために研究を行った。主な結果は以下のとおりである。

- 1) ブロード攻撃が全体のスパイクに占める割合は7.79%であり、レシーブ状況の中ではレセプション後のブロード攻撃の打数が最も多かった。
- 2) レシーブ状況別のブロード攻撃の出現結果にはセットの勝敗間に明らかな差があり、DIG後の出現がセットの勝敗に関連していた。
- 3) ブロード攻撃は、決定力が高く、ミスが少ない有効な攻撃手段であることが明らかになった。
- 4) ブロード攻撃の結果がセットの勝敗に影響

表9 セットの勝敗とブロード攻撃の強打と軟打の決定率

	WIN			LOSS			
	打数	決定	決定率	打数	決定	決定率	
強打	257	136	52.92	236	109	46.19	ns
軟打	66	27	40.91	73	17	23.29	*

* p < 0.05

しており、特にレセプション後の決定力が重要であった。

- 5) ブロード攻撃は、アンテナ付近からの攻撃(SC)、セッターが定位置の場合(AR)の攻撃、および軟打の結果がセットの勝敗に関連していた。

本研究は、日本のトップリーグであるバレーボール・Vプレミアリーグ女子を対象としたが、得られた結果はバレーボール指導の資料となるものであった。また、今後は他のレベルとの比較など、さらなる研究の必要性も感じられた。

文献

- [1] CPV編集部(2020) サウスポーの活かし方～バレーボールにおける左右差について考える～, *Coaching & Playing Volleyball*, 112: 2-7.
- [2] 平馬慶太(2009) データから見るレセプションアタックとディグアタック～Vリーグ男女のデータ比較～, *Coaching & Playing Volleyball*, 64: 20-24.
- [3] 今井啓介, 森祐貴(2020) バレーボールゲームにおける軟攻の有効性に関する研究—大学女子M大学の事例から—, *スポーツパフォーマンス研究*, 12: 537-544.
- [4] 日本バレーボール学会(2010) *Volleypedia* バレーボール百科事典, 日本文化出版, p. 26.
- [5] 箕輪憲吾(1995) バレーボールにおけるスライドスパイクに関する基礎的研究, *長崎県立女子短期大学 研究紀要*, 43: 63-71.
- [6] 箕輪憲吾(2001) バレーボールにおける25点ラリーポイント制のゲームに関する研究—攻撃の結果とゲームの勝敗について—, *県立長崎シーボルト大学国際情報学部紀要*, 2: 67-74.
- [7] 箕輪憲吾・今丸好一郎・松本勇治(2016) バレーボールのファーストランジッションにおけるパフォーマンスとゲームの勝敗に関する研究—大学女子チームを対象として—, *バレーボール研究*, 18(1): 19-26.
- [8] 箕輪憲吾(2017) バレーボールのチームづくりに関する事例研究—戦術目標を設定したゲームの結果と内容についての検討— *スポーツパフォーマンス研究*, 9: 251-267.
- [9] セリンジャー・A, アッカーマンブルント・J, 都沢凡夫(訳)(1993) *パワーバレーボール*, ベースボールマガジン社, p. 133, 145.
- [10] 渡辺啓太(2011) オフェンスのカギを握るセンター攻撃, *Coaching & Playing Volleyball*, 75: 6-9.
- [11] 米山一朋(2010) *バレーボール練習メニュー* 200, 池田書店, p. 158.
- [12] 吉田康伸, 濱口純一, 山田快(2016) 女子バレーボールにおける攻撃パターンについての研究, *法政大学スポーツ研究センター紀要*, 34: 5-10.

[Original Article]

Research of slide attacks in volleyball games

—For Women's V. League—

Kengo Minowa¹, Kouichiro Imamaru²

Hisanobu Tawara³

Abstract

The purpose of this research is to obtain materials for future volleyball instruction by clarifying slide (broad) attacks and the relationship between the results of attacks and winning or losing in volleyball games. The focus was a total of 101 sets in 28 games in the 3rd match (3 Leg) of the 2015/16 V Premier League women's regular round that was held in a round robin system for the 3rd round of 8 teams. The main results are as follows:

1. Slide attacks out of total attacks accounted for 7.79%, and the number of successful slide attacks after service-reception was the highest in the receiving situation.
2. There was a clear difference between the wins and losses of the set as a result of slide attacks based on the receiving situation during the game, and the slide attacks after DIG also increased the number of winning sets.
3. It has become clear that slide attacks are an effective means of attack with high scoring ability and few mistakes.
4. The outcome of the slide attack affected the result of the set win or loss, especially scoring ability after the reception was important.
5. The slide attack close to antenna area (SC), the slide attack when the setter is in the setter's pocket area (AR), and the attack of soft hits has a correlation with the win or loss of the set.

Key words: volleyball, game analysis, slide attack, V. league

1 Faculty of Health and Sports, Nagoya Gakuin University

2 Faculty of Physical Education, Tokyo Women's College of Physical Education

3 Faculty of Sports Science, Kyushu Kyoritsu University